

病害虫発生予察情報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

6月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（葉いもち）	並	並	果樹	果樹のカメムシ類	並	並
	紋枯病	やや少ない	並		リンゴの輪紋病	少ない	並
	斑点米カメムシ類				リンゴの褐斑病	やや多い	やや早い
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	少ない	—		リンゴのキンモンホソガ	並	並～やや早い
	アカスジカスミカメ	並	—		リンゴのハダニ類	多い	並～やや早い
	トゲシラホシカメムシ	並	—		ニホンナシの輪紋病	少ない	並
	ニカメイガ	並（局部多い）	並		ニホンナシの黒星病	やや多い	並
	イネミズゾウムシ	並	—		ニホンナシのナシヒメシンクイ	少ない	並～やや早い
	イネドロオイムシ	並	—		ニホンナシのハマキムシ類	並	並～やや早い
	ツマグロヨコバイ	少ない	—		ニホンナシのハダニ類	やや多い	並～やや早い
大豆	茎疫病	並	並	ブドウの灰色かび病	少ない	並	
	タネバエ	並	並	ブドウのべと病	やや多い	並	
	ネキリムシ類	少ない	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	並	
野菜	タバコガ類	並	並	モモのせん孔細菌病	並	並	
	ネキリムシ類	少ない	—	チューリップの球根腐敗病	やや多い	—	
	白ねぎのさび病	少ない	並	チューリップのアブラムシ類	並	—	
	白ねぎのネギアザミウマ	多い	—	タバコガ類	並	並	
	白ねぎのネギハモグリバエ	多い	並				

富山県農林水産総合技術センター

農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稻

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・6月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・平年の初発日は7月10日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・防除指針 28～29 ページ参照

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年9月5日調査では発病株率が6.0%で平年（9.4%）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・平年の初発確認日は6月22日であるので、ほ場の観察に努める。
- ・防除指針 27～28 ページ参照

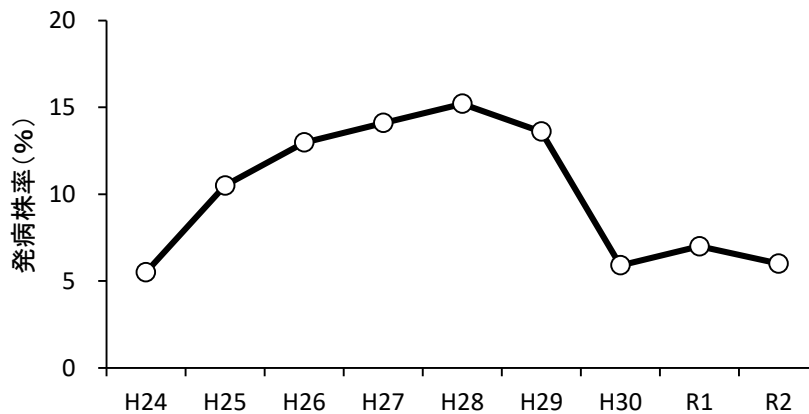


図1 紋枯病発病株率の年次推移（9月5日調査）

3 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.2頭で平年（1.8頭）より少なかった。

た。確認地点率も6.7%で平年（37.8%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・防除指針 40～42ページ参照

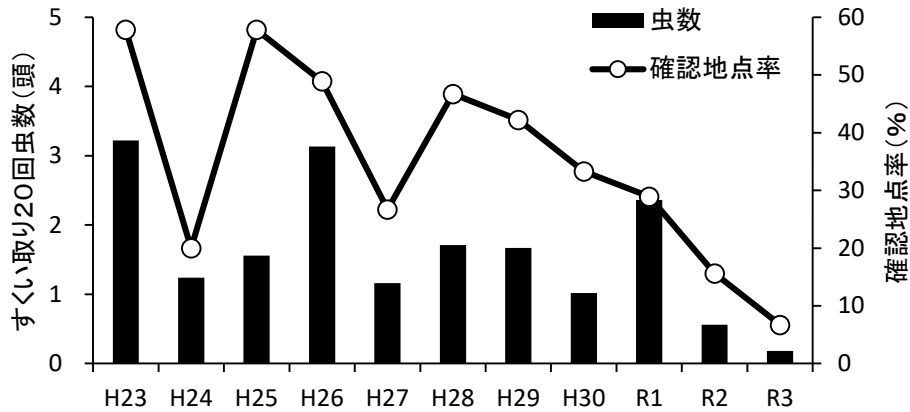


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容

発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.6頭で平年（1.4頭）より少なかったが、確認地点率は28.9%で平年（24.4%）よりやや高かった。

(3) 防除対策

- ・畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・防除指針 40～42ページ参照

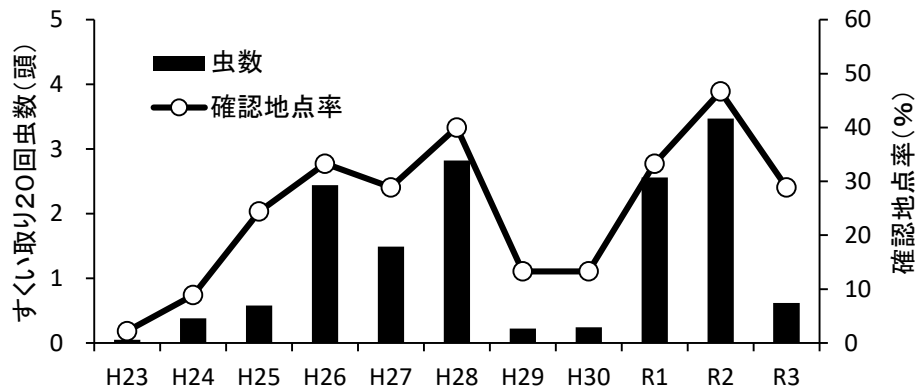


図3 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容

発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.0頭で平年（0.1頭）並、確認地点率も4.4%で平年（3.8%）並であった。

(3) 防除対策

- ・畦畔等の雑草管理に努める。
- ・防除指針 41～42ページ参照

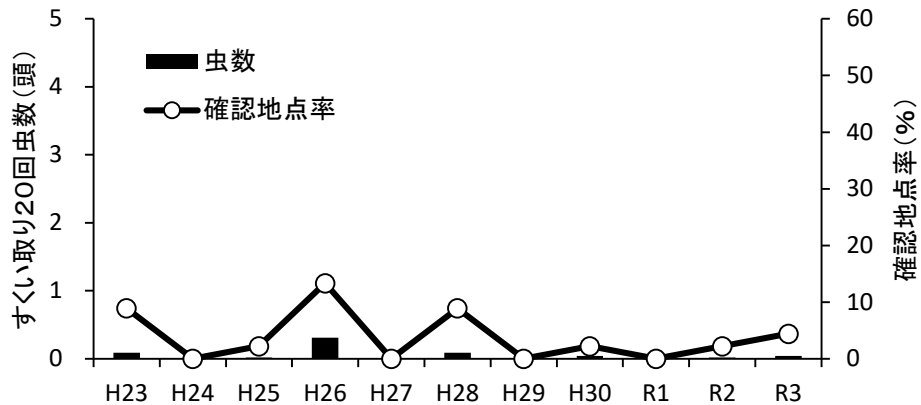


図4 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

6 ニカメイガ（第1世代）

- (1) 予報内容 発生量：並（**局部多い**）
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の越冬前10a 当り生幼虫数は119.7頭で平年（181.7頭）よりやや少なかったが、本年の予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は一部地域で多かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 35～36 ページ参照

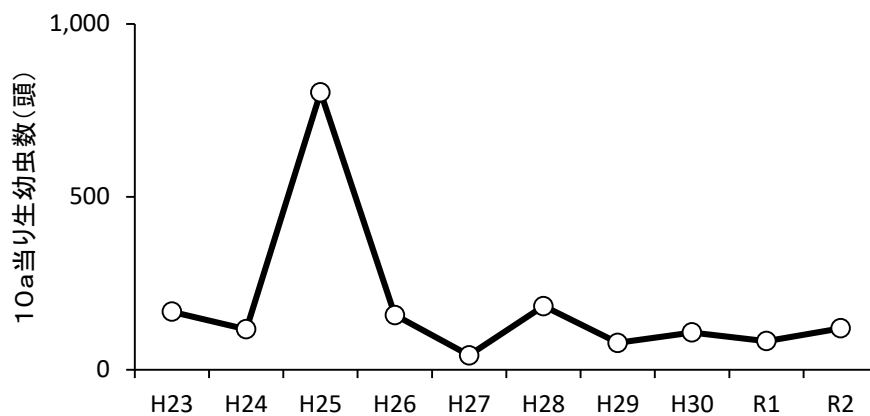


図5 ニカメイチュウの生幼虫数年次推移（越冬前調査）

7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0.8%で平年（1.1%）並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 34 ページ参照

8 イネドロオイムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・前年6月20日（被害盛期）の調査では被害葉率が0%で平年（0.0%）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 35 ページ参照

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・越冬後調査のすくい取り20回虫数は0.0頭で平年（0.3頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 37ページ参照

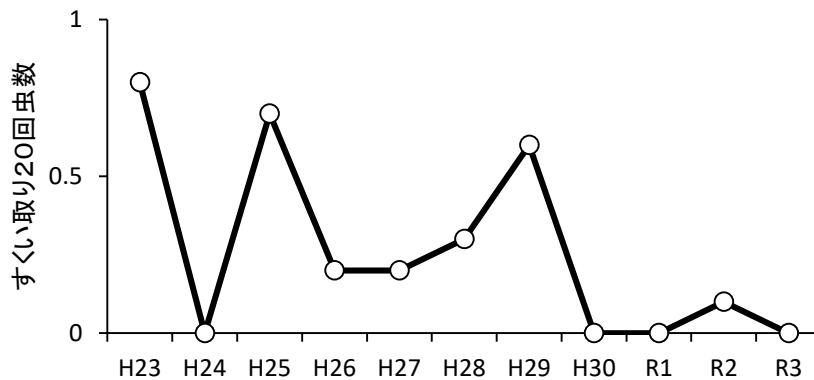


図7 ツマグロヨコバイのすくい取り状況年次推移（越冬後調査）

II 大豆

1 茎疫病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・6月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ほ場の排水に努める。
 - ・防除指針 51～52 ページ参照

2 タネバエ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・6月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針 51、53 ページ参照

3 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～5半旬までの誘殺数は、タマナヤガが11.9頭で平成(31.0頭)より少なく、カブラヤガも52.5頭で平成(117.8頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・出芽後定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、播種の一週間程前に刈取る。
- ・防除指針 51 ページ参照
- ・末尾に参考資料

Ⅲ 野 菜

1 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

(1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガが0頭で平成(0.6頭)並、オオタバコガも1.0頭で平成(1.8頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 66～132 ページのタバコガ類の頁参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～5半旬までの誘殺数は、タマナヤガが11.9頭で平成(31.0頭)より少なく、カブラヤガも52.5頭で平成(117.8頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 68～132 ページのネキリムシ類の項参照
- ・末尾に参考資料

3 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 5月25日の調査では被害株率が0%で平年(2.9%)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 97 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 5月25日の調査では被害株率が35.0%で平年(10.4%)より高かった。
- ・ 6月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 99～100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 5月25日の調査では、被害株率が20.0%で平年(2.3%)より高かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 99 ページ参照

IV 果 樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は3.4頭で平年(5.7頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ カメムシ類の発生状況に注意し、発生が見られる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系殺虫剤)を散布する。
- ・ 防除指針：リンゴ139, 144～145, 147～148ページ、ニホンナシ150, 155, 158ページ、カキ166, 169～170ページ、モモ172～173, 175ページ参照

2 リンゴの輪紋病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
- ・防除指針：139, 142, 146～147ページ参照

3 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・県内主要産地において、平年よりやや早く感染が拡大している。

- (3) 防除対策

- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
- ・薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
- ・防除指針：139, 141～142, 146～147ページ参照

4 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並～やや早い

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は1.3頭で平年（1.2頭）並であった。

【早発要因】

- ・6月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・6月上旬（第1世代成虫発生盛期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：139, 143～145, 147～148ページ参照

5 リンゴのハダニ類（ナミハダニ）

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：並～**やや早い**

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量は多かった。

【早発要因】

- ・6月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：139, 145～146 ページ参照

6 ニホンナシの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
- ・防除指針：150, 152～154, 157ページ参照

7 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・県内主要産地における現在の発生量は過去2ヶ年に比べて**やや多い**。

- (3) 防除対策

- ・罹病した果実や葉は、見つけ次第除去し、処分する。
- ・薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、降雨前防除を実施する。
- ・防除指針：150, 152～154, 157ページ参照

8 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 発生時期：並～**やや早い**

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は3.5頭で平年（13.9頭）より少なかった。

【早発要因】

- ・6月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・6月上中旬（第1世代成虫発生盛期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：150, 154～155, 158～159 ページ参照

9 ニホンナシのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並～**やや早い**

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は1.9頭で平年（1.4頭）並であった。

【早発要因】

- ・6月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・成虫発生盛期（平年では5月5半旬頃）の7～10日後に防除を実施する。
- ・防除指針：154～155, 158～159 ページ参照

10 ニホンナシのハダニ類（ナミハダニ）

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
 発生時期：並～**やや早い**

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量は**やや多**かった。

【早発要因】

- ・6月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：150, 156, 158～159 ページ参照

1 1 ブドウの灰色かび病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・罹病した花穂や葉などは、見つけ次第除去し、処分する。
- ・袋かけ前に果房に花カスが残らないように取り除く。
- ・落花後は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
- ・防除指針：161～163ページ参照

1 2 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・罹病した花穂や果房などは、見つけ次第除去し、処分する。
- ・防除指針：161～164ページ参照

1 3 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月1半旬～3半旬の誘殺数は21.5頭で平年（35.5頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・6月下旬～7月上旬（第1世代ふ化幼虫発生期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：166～167, 169～170ページ参照

14 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・6月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
- ・果実への感染被害を防ぐため、6月中旬までに袋掛けを完了する。
 - ・発生が多い園地では、袋掛け終了後、速やかにICボルドー412（50倍）を散布する。
ただし、薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。
 - ・防除指針：172～173, 175ページ参照

V 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・6月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・適期の掘り取りに努める。
 - ・掘り取り後は速やかに水洗・乾燥する。
 - ・防除指針：190、211～212 ページ参照

2 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・チューリップ予察ほ場において5月中旬以降の有翅虫飛来数が平年よりも少なかったが、6月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
 - ・防除指針：190、211～212 ページ参照

3 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガが0頭で平年（0.6頭）並、オオタバコガも1.0頭で平年（1.8頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 205、207、212、216 ページ参照

令和3年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「農薬は 周りに配慮し 正しく使用」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「6月15日～9月14日」
- 富山県の重点指導項目：
 - 1 住宅周辺で散布する時は事前に周知し、飛散防止を徹底
 - 2 使用前には必ずラベルで作物名・使用方法等を確認
 - 3 農薬は適切に保管・管理し、使用した場合は必ず記帳
 - 4 農薬を調整・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用

参考資料

ネキリムシ類のトラップ誘殺数調査結果(令和3年度)

5月1半旬～5月5半旬のトラップ誘殺数はタマナヤガ、カブラヤガともに平年より少ない。

表1 タマナヤガのトラップ誘殺数 (平年値:H23～R2年)

月・半旬	入善町上野			立山町五百石			射水市七美			南砺市竹内			平均			
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	
5	1	0	0	5.5	2	19	10.5	0	0	7.0	-	1	4.1	0.7	5.0	6.8
	2	0	0	3.3	8	15	12.4	0	0	7.7	-	1	4.5	2.7	4.0	7.0
	3	2	1	3.7	0	15	10.1	2	1	7.6	4	0	2.7	2.0	4.3	6.0
	4	3	15	6.1	4	6	7.4	6	1	6.9	5	0	1.4	4.5	5.5	5.5
	5	1	28	8.0	1	3	7.5	2	3	5.6	4	2	1.7	2.0	9.0	5.7
	6		12	10.5		0	7.9		1	5.1		2	1.9		3.8	6.4
6	1		2	9.4		1	7.9		2	6.3		2	2.9		1.8	6.6
	2		5	5.9		4	10.4		1	5.3		0	2.2		2.5	6.0
	3		11	7.5		3	13.1		1	4.2		1	2.1		4.0	6.7
	4		0	5.7		2	10.4		3	4.3		1	1.3		1.5	5.4
	5		9	6.8		3	11.6		1	4.1		0	1.4		3.3	6.0
	6		0	4.3		5	15.2		6	3.7		0	0.8		2.8	6.0

表2 カブラヤガのトラップ誘殺数

月・半旬	入善町上野			立山町五百石			射水市七美			南砺市竹内			平均			
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	
5	1	0	0	13.4	12	31	33.2	1	8	15.5	-	22	16.5	4.3	12.3	19.7
	2	0	0	20.1	9	22	31.7	4	11	16.4	-	15	19.1	4.3	15.3	21.8
	3	4	4	31.6	10	24	38.1	6	15	15.5	31	9	19.0	12.8	19.5	26.1
	4	3	27	30.3	23	27	28.3	5	21	15.4	32	11	18.7	15.8	23.8	23.2
	5	5	4	47.0	16	18	25.5	5	11	18.4	35	28	17.0	15.3	29.3	27.0
	6		23	43.8		8	25.1		12	12.8		26	20.6		19.8	25.6
6	1		11	31.4		9	20.6		8	18.3		31	24.7		17.5	23.8
	2		4	11.3		5	14.9		10	15.6		18	22.2		11.3	16.0
	3		15	13.4		4	14.3		12	16.0		16	20.2		15.3	16.0
	4		3	13.3		5	10.8		3	14.2		21	15.9		11.8	13.6
	5		6	7.4		5	9.2		1	10.2		15	14.7		11.8	10.4
	6		1	12.1		9	18.2		9	11.7		12	11.2		9.5	13.3

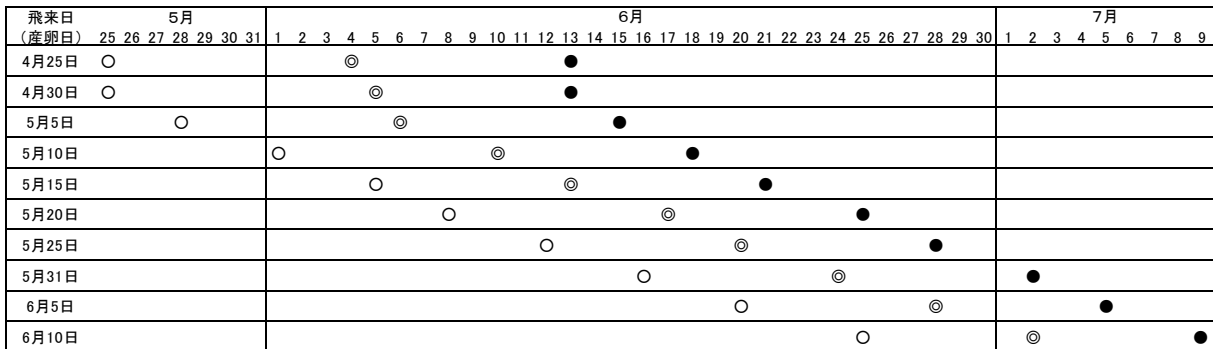


図1 積算気温から推定したタマナヤガ幼虫による大豆茎切断被害発生時期の予測(富山市)

注1) ○:茎切断開始時期(3齢幼虫出現時期) ◎:本格的な茎切断開始(5齢幼虫出現時期) ●:茎切断終了時期(蛹化開始時期)
 注2) 平均気温は気象台の富山アメダス地点のデータを利用し、6月30日までは実測値、6月31日以降は平年値。

今後、トラップ誘殺数が増える場合は、大豆茎切断被害発生時期の予測図を参考にほ場での被害状況を確認し、茎切断率が15%を超える場合には防除する。

北陸地方 3か月予報

(予報期間 6月から8月)

5月25日

新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

6月 期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

項目	地域	期間	確率 (%)		
			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	北陸地方	06月~08月	20	40	40
		06月	20	40	40
		07月	30	30	40
		08月	30	30	40
降水量	北陸地方	06月~08月	20	40	40
		06月	30	30	40
		07月	20	40	40
		08月	30	30	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)